

2023年度『学力向上推進5カ年プラン・プロジェクトⅡ』

1. 学力向上推進のための取組構想

推進目標： 生きる力を育むために、児童一人ひとりに「確かな学力」を身につけさせる
～授業改善を軸とした、学力向上の推進～

数値目標： 全国学力状況調査、県学力到達度調査等において、平均正答率を県水準に維持する。

令和4年度「沖縄県到達度調査」

6年生平均正答率(%)

	国語	算数
本校	66.7	56.4
市	65.1	54.7
地区	66.3	57.6
県	65.9	57.5

5年生平均正答率(%)

	国語	算数
本校	69.9	59.6
市	65.1	44.5
地区	67.7	47.5
県	68.8	48.3

令和5年度数値目標

全国学力状況調査、県学力到達度調査等において、全ての教科で平均正答率を県水準に維持する。

【成果指標】

- ①すべての教科において、平均正答率－3p以内
- ②平均正答率30%未満の児童生徒の割合の減少(県以下)
- ③平均無回答数の数値の減少(県以下)

令和4年度全国学力状況調査

平均正答率(%)

	国語	算数
本校	66.4	60.1
南城市	59.6	57.9
地区	61.1	59.7
沖縄県	59.8	59.4

正答率30%未満の割合(%)

	国語	算数
本校	8.1	5.1
南城市		
地区		
沖縄県	13.8	10.1

取組の重点

柱1 キャリア教育の視点を踏まえた「確かな学力」の向上の推進

取組事項

- 「学ぶことの意義」「働くことの意義」を理解させ、目的意識を高め、キャリアパスポートの推進。
- 外国語活動や校外学習によるコミュニケーション能力等の社会性の向上。
- 保護者・地域・関係機関を活用した体験学習・コンクール等の参加の推進。
- 生徒指導を中心とした生活規範の確立。

柱2 「授業改善」に重点をおいた「確かな学力」の向上の推進

取組事項

- 「問い」が生まれ、「主体的・対話的・深い学び」に繋げる授業改善の推進を目指す。
 - ・知念スタンダード(授業の型)による授業展開の共通実践
 - ・「めあて」に正対した「まとめ」「振り返り」とタイムマネジメントの徹底
 - ・意図的・計画的な発問による思考の場の設定と時間の確保
 - ・思考過程に沿った構造的な板書、思考の足跡が見えるノート指導の充実
 - ・授業評価や各種学力調査に基づく授業展開の工夫
 - ・研修成果が授業改善に生かせる校内研修の推進
 - ・互いに学び合う教材研究の体制作りと時間の確保
 - ・タブレットPC等を活用したプログラミング的思考の育成

目指す授業像：友達と協働して問題を解決し、深い学びにつながる、対話的な授業

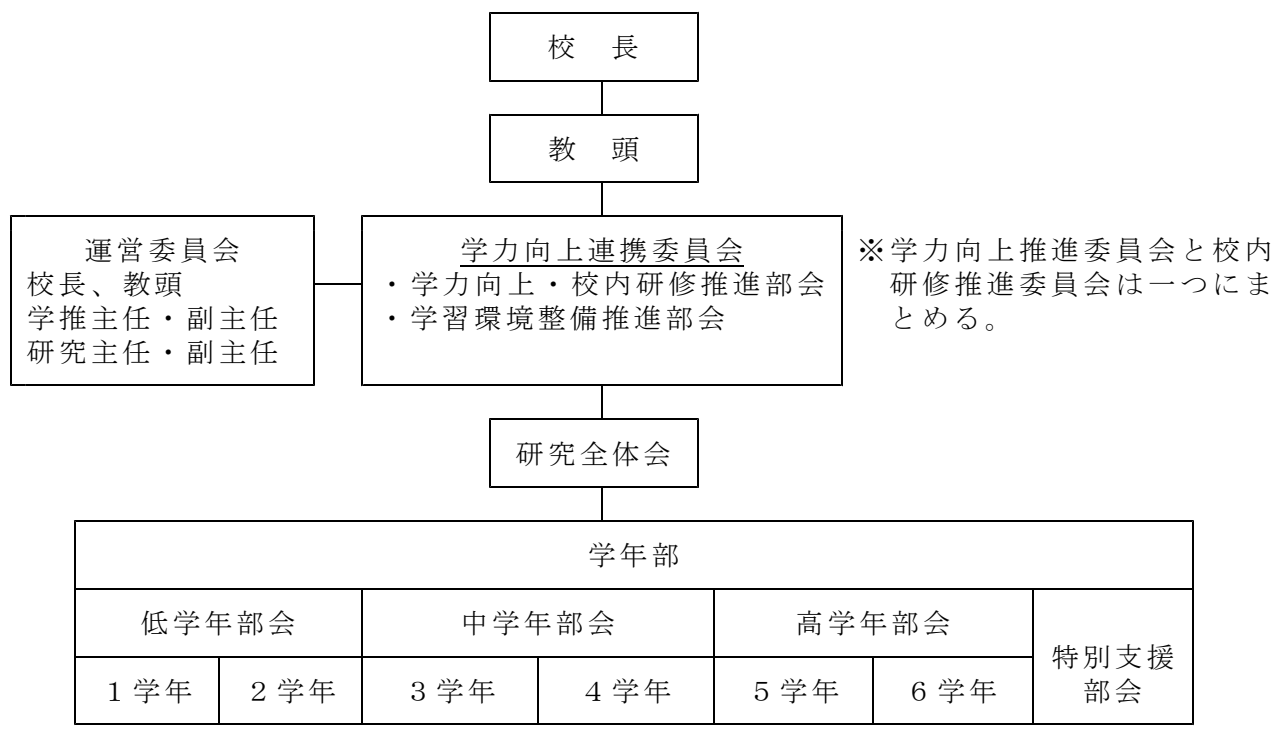
目指す子どもの姿（「問い」を発しながら問題を解決するプロセス①～④）

主体的	対話的	深い学び
主体的に「問い」をもち、自分なりの考えを持つ。 ①問題を発見する。 ・課題から「問い」を発見する。 ②解決方法を見通す。 ・めざすゴールをイメージする。 ・課題の解決に向けた見通しを持つために思考ツールを活用し、自分の考えを可視化して整理する。	他者との交流を通し、「問い」が生まれ自分の考えを広げ深める。 ③課題解決を図る。 ・既習の知識・技能を活用して課題に取り組む ・比較・分類・類推するなど多角的多面的に考える。 ・他者との交流を通して、自分の考えを吟味する。	学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもつ。 ④課題解決を振り返る ・学びの過程を振り返り、新たな「問い」を見出す。 ・自己評価を通して、自分の変容を確認する。

授業改善 6 つの方策		
方策 1 目指す授業像の共有	方策 2 教材研究の充実	方策 3 学力向上マネジメントの推進
取組事項	取組事項	取組事項
○「アクティブラーニング」の視点からめざす授業像、子どもの姿を共有し、授業改善の取組を展開する。 ・基本的な学習のプロセスを踏まえる。【学習の見通しを持つ→自分の考えを持つ→ペアや集団で話し合う→学習内容や学習方法を振り返る】 ○どのように学ばせるかという、どの教科にも共通した学び方や学習過程を指導していく。 ○考えを深める場面や発表する場面での言語活動の充実を図る。	○「教材研究ツール」等を活用し、日常的に授業力を高める。 ○各種学力調査や授業における基本事項、わかる授業 Support Guide 等を活用し、課題解決を図る取組(授業改善・補習)を充実させる。 ○組織的な取り組みにより、授業改善の充実を図る。 ・知念スタンダードの取組の充実 ・校内研修の取組の充実 ・教材研究の充実(合同教材研究) ・保幼小、小中連携の取組の充実	○教職員が学力向上の具体的な到達目標を共有し、学力向上マネジメントによる目標管理型評価システムを取り入れる。 ・学校評価の活用、育成評価記録書、学級経営案等との連動 ○全校体制での取り組みを推進する。 ・管理職による授業観察とフィードバックの工夫 ・学力向上連携委員会の開催 ・校内支援委員会の開催
方策 4 学習を支える力の育成		
学習環境の充実	規範意識・マナーの向上	家庭学習の習慣化
・学習規律を徹底するとともに、毎週金曜日を整理整頓の日と定め、教室環境を整える。 ・教室掲示物を精選し、学校全体で意識した活用を図る。	・学習のきまりトップスリーを中心に、規範意識・マナーの向上を図る。(トップスリー週間の取組) ・あいさつ日本一の取組としてあいさつ日本一週間の推進を図る。	・授業と連動した課題を与えるなど、課題の与え方を工夫し内容の充実を図る。 ・家庭学習の反省リレーを通して、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図る。
読書活動の充実	体験活動の充実	生活リズムの確立
・朝の読書活動や読み聞かせ等による読書活動の充実を図る。 ・学級文庫等、読書に親しむ環境づくりに取り組む。 ・全体音読の実施。	・人々との交流を取り入れた社会体験の充実を図る。 ・地域の特性を生かした体験活動に取り組むとともに、地域人材を活用した内容の充実を図る。	・モーニングウォーキングを奨励し、早起きをして徒歩での登校を呼びかける。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みの充実を図る。
対話の充実	方策 5 集団づくり・自主性を高める取組の充実	
・業務改善を視野に入れ、放課後教師と児童が向き合える時間の確保が図れるようにする。 ・家庭訪問や保護者会等を活用して、家庭での対話の充実を図るよう呼びかける。	取組事項 ※道徳性を養う道徳教育の充実 ※特別活動の指導の充実 ○支持的風土を醸成できるよう学級経営の充実を図る。 ・児童が自分の思い等を安心して表現出来る経営の充実に努める。 ○生徒指導の三つのポイントを生かした授業の日常化を図る。 ・共感的な人間関係、自己存在感を得る場や自己決定の場の設定を工夫する。 ○学びに向かう集団作りを進める学級活動や児童会活動の充実を図る。	
方策 6 教育行政による効果的な支援の構築		
取組事項		
○学力向上推進室、島尻教育事務所、市教育委員会による学校支援訪問を通して、学校における学力向上の取組の助言をいただき、実践に生かせるようにする。		
評価 【達成状況 90%以上→A 70%以上89%未満→B 70%未満→C】		
①全国学力、県到達度調査等の平均正答率を県水準を維持する。国語、算数とも-3 p 以内		
②正答率 30 %未満の児童の割合の減少。		
③児童生徒質問紙の学習意欲等に関する項目の数値の向上。		
④学校質問紙の「授業における基本事項」等に関する事項の数値向上。		

2. 推進体制

(1) 組織図



(2) 組織の役割

各部	各種主任等	内容
運営委員会	校長 教頭 教務主任 学推主任、副主任 研究主任、副主任	○学力向上推進計画の立案 ○校内研修推進計画の立案
学力向上・校内研修推進部会	校長 教頭 教務主任 学推主任 研究主任 各学年主任	○学力向上推進計画の作成・推進 ○校内研修推進計画の作成・推進 ○推進のための諸活動 ○学力向上推進発表の企画・検討 ○学力向上強化月間の企画・検討 ○授業改善に向けての立案・検討
学習環境整備部会	学推副主任 研究副主任 各学年 図書館司書	○学力向上・校内研修に関する掲示物作成 ○漢字検定の取組・取りまとめ ○全体音読への取り組み ○コンクールへの出展の取りまとめ ○学力向上強化月間の企画・検討 ○授業改善に向けての立案・検討
研究全体会	全員	○全体的協議・決議や理論・実技研修 ○研究授業・授業研究会 ○学力向上強化月間の取組 ○授業改善に向けての取組の確認
学年部	担任、担外	○学年部の研究、推進、教材研究 ○指導案作成 ○授業研究会の実施・評価 ○学習規律の徹底 ○学力向上強化月間の取組 ○授業改善に向けての取組

3. 年間計画

4 月	・ 学習規律強化月間 ・ トップスリー週間 ・ 新年度学力推進計画の確認 ・ 取り組み事項及び指標の設定 ・ 家庭学習朝会の実施 ・ 全国学力学習状況調査（6年） ・ 知念っ子タイムの確認 ・ 全体音読の確認 ・ 全体音読の実施（6年）	10 月	・ 全体音読の実施（2年） ・ 学力向上対策の各学年実践内容の成果と課題及び対策まとめ ・ 知念っ子タイムの実施（コグトレ、朝学習）
5 月	・ 家庭学習強化月間 ・ 全国学力学習状況調査の分析 ・ 全体音読の実施（5年） ・ 各学年の具体的取組の設定 ・ 学校計画訪問（市教委）での説明 ・ 知念っ子タイムの実施（コグトレ、朝学習）	11 月	・ 学力定着度調査（3年～6年） ・ 知念っ子タイムの実施（コグトレ、朝学習）
6 月	・ 知念っ子タイムの実施（コグトレ、朝学習） ・ 学びのたしかめ（3年～5年） ・ 全体音読の実施（4年）	12 月	・ 学力向上対策実践報告書まとめ ・ 全体音読の実施（1年） ・ 知念っ子タイムの実施（コグトレ、朝学習） ・ 学力定着度調査の分析 ・ 地区学力向上推進報告書作成 ・ 市学力向上実践報告書作成
7 月	・ 学力向上推進具体的な取組調査（実践評価と対策の検討） ・ 知念っ子タイムの実施（コグトレ、朝学習） ・ 学びのたしかめの分析	1 月	・ 学習ステップアップ月間（1月） ・ トップスリー週間 ・ 強化学習会の実施 ・ 家庭学習奨励朝会 ・ 南城市「教育の日」 ・ 校内学力向上実践発表会（1/29） ・ 全体音読の実施（全体） ・ 知念っ子タイムの実施（コグトレ、朝学習）
8 月	・ 各学年教材研究 ・ 二学期の学力向上推進の確認 ・ トップスリー週間	2 月	・ 学力向上強化月間（2月） ・ 強化学習会の実施 ・ 県到達度調査（3年～6年） ・ 知念っ子タイムの実施（コグトレ、朝学習）
9 月	・ 学力向上強化月間 ・ 読書月間 ・ 全体音読の実施（3年） ・ 知念っ子タイムの実施（コグトレ、朝学習）	3 月	・ 知念っ子タイムの実施（コグトレ、朝学習） ・ 学力向上強化月間（3月） ・ 本年度学力向上対策の反省と次年度取組事項確認

学力向上対策における成果等の公表

（１）学力向上推進実践報告会の実施。

（２）学級保護者会において、各学級の具体的な取り組みの結果を保護者へ説明する。

